

東大阪市立新博物館整備基本計画素案のパブリックコメントで寄せられた意見とそれに対する本市の考え方

意見の提出者数:26名 意見の件数:96件

意見項目	意見の概要	本市の考え方
基本コンセプト	たくさんの資料を無駄にせず、市が教育・文化・観光・地域産業などの地域づくりをしてほしい。	多様な主体が博物館活動に参画する仕組みをつくり、博物館パートナーと一体となって、学びの環境、文化観光の拠点、まちの魅力づくりを創出していきます。
	館種の記述がない。(文化施設再整備基本構想(改定版)では「歴史系総合博物館」とされていた)。また東大阪市内の博物館群の中での位置づけもない。	新博物館は「歴史民俗系博物館」として位置づけており、第2章基本コンセプトに記載しました。
	与えられた床面積の規模では総合博物館は不可能であり、経緯からみれば歴史系に絞り込むしかない。	
	子どもファーストばかりでなく、市民全体が行ってみたいくなるような魅力ある博物館にしてほしい。	基本理念にあるように、東大阪の”たからもの”を未来につなぐ「まちの・わたしの博物館」を整備します。その中で、市の重点課題である「子どもファーストの視点から、新博物館の重点ターゲットを「子どもたち」と設定していますが、すべての世代の方々に親しまれ、何度も訪れたいくなる博物館を整備してまいります。
事業活動	博物館利用者、ボランティアなど協力して内容を充実させていく考えが必要だ。	開館前から、市民をはじめとした多様なパートナーが博物館事業に参画できる仕組みづくりを構築し、博物館活動を充実してまいります。
展示計画	博物館1階に子どものパークフロア(子ども展示室)を計画しているが、学校の児童・生徒がしっかりと東大阪の歴史を学べる展示にしてほしい。(他2件)	だれもが東大阪の自然・地理・歴史の変遷をしっかりと学び、郷土への愛着を深められるよう、これまでの東大阪の歴史や文化財の調査・研究の成果を反映した展示を検討してまいります。
	展示計画に、東大阪市の財産となる文化財や自然環境といった目玉が見えてこない。導入部に映像によるガイダンスコーナーは必要ない。市の自然・歴史・民俗資料を収集・研究してきた市常勤学芸員と、各分野の研究者が共同で企画を練るべき。	
	東大阪市の成り立ちや「物づくり」の歴史、韓国・中国・東南アジアとの交流、又日本全国各地との交流の歴史がわかる展示をしてほしい。	
	展示手法、見せ方が中心で、展示内容について掘り下げられていない。展示コンセプトは、これまで東大阪の歴史や文化財に関わって資料を収集し、調査研究の成果を積み上げてきた専門家が中心になって練り上げなければ、新博物館としての魅力、インパクトは生まれない。	
	展示内容は障害(児)者が理解できるよう配慮してほしい。	文化・言語・国籍の違いや年齢・性別・障害の有無など、さまざまな個性や違いに関わらず、誰もが理解しやすいユニバーサルデザインを考慮した展示を検討してまいります。

意見項目	意見の概要	本市の考え方
施設計画	新博物館の敷地面積が(駐車場も含めて)狭すぎる。十分な広さを検討してほしい。(他11件)	東大阪市公共施設再編整備計画(令和4年改訂)で新博物館整備予定地と位置づけられた敷地を有効に活用し、魅力的な博物館として運営し、事業を進める上で望ましい施設となるよう検討していきます。
	新博物館整備予定地に隣接する校舎の利活用は困難ですが、展示と判断しています。	
	新博物館は、公開承認施設として整備してほしい。(他2件)	
	障害(児)者が利用しやすい、バリアフリーの建物にしてほしい。(アクセスも含めて)	
郷土博物館の利活用	「古墳に隣接する博物館」の価値を生かして、郷土博物館の利活用を充実してほしい。(他3件)	郷土博物館の利活用については、いただいたご意見も踏まえ、引き続き検討してまいります。
	郷土博物館・埋蔵文化財センターが休館で市民が文化財に触れる機会がないので、新博物館開館に先行して、郷土博物館を耐震補強工事を行い、利活用を検討してほしい。(他1件)	
	郷土博物館を耐震補強し、文化財等の収蔵機能として活用することは大賛成である。山畑古墳群の見学者を増やすためにも、マイクロバス程度が楽に通行出きるように道路整備できないか。	
	郷土博物館を新博物館の別館と位置づけ、自然史分野の事業を展開するとともに、山畑古墳群の魅力を発信するサイト・ミュージアムとして、また生駒山系を利用する人々のビジターセンターとして検討してほしい。	
	郷土博物館の「展示スペース」を大幅に広げるなどの利活用を検討してほしい。	
運営手法	博物館は、民間委託や指定管理者ではなく市直営で運営してほしい。(他18件)	いわゆる学芸部門については市直営が望ましいと考えておりますが、魅力的な博物館として最適な整備および運営手法について引き続き検討してまいります。
	文化施設再整備基本構想(改定版)p.42~43「収蔵資料を未来へ確実に伝達する博物館として継続性と安定性を重視した運営体制を整備します。」に基づき、市直営とすること。期間を限定しつつ競争原理に基づく指定管理者制度は、中長期的な展望をもって活動していかなければならない博物館の安定的な運営に弊害が多い。(他1件)	

意見項目	意見の概要	本市の考え方
運営体制	学芸員は、経験豊かで専門性を有した市正規職員を配置してほしい。(他14件)	学芸員については、専門的な知識と経験が何よりも重要であると認識しております。貴重な文化財の収集・保存・調査研究・未来への継承を継続して行えるよう、望ましい運営体制を検討していきます。
	地方自治体ならびに本博物館の在り方や趣旨を的確に理解し、知恵や工夫を惜しみなく注ごうという意欲あふれた職員を複数名据えるべき。有期雇用や臨時的職員でなく、安定した地位と待遇を与えること。	
	学芸員が周辺の博物館とネットワークを築くためには10年はかかるので、学芸部門は長期継続した配置が重要である。	
	新博物館の運営は、市直営で多様な専門性を有した正規職の学芸員体制を確保してほしい。数年で業者が変わる指定管理運営では、文化の保存・継承・未来世代への引き継ぎ、社会問題への対応など、博物館が求められる使命に果たせないので、多様な分野に精通した学芸員を正規職員で配置するべき。	
開館準備	庁内組織として新博物館準備室を設け、学芸員と事務職員を必要人数配置し、以後の新博物館建設を進める体制を整備すべきである。(他1件)	新博物館開館に向けて、建設整備、展示内容や協力基盤の構築を図れるよう、新博物館準備室の設置を検討してまいります。
市民参加	建設工事段階から市民が参加できるように進めてほしい。(他3件)	新博物館の整備において、市民の皆様のご意見を聞くことができるよう、引き続き様々な手法を検討してまいります。
	市民参画の機会として、「市民説明会」よりも、市民の声を直に聞く場として「市民の積極的な意見を集める(聞く)会」などを開いてはどうか。	
	設計・建築段階で、障害(児)者団体(肢体不自由・視覚障害・聴覚障害・知的障害・発達障害等)の意見を聴いてほしい。	

意見項目	意見の概要	本市の考え方
その他	郷土博物館及び埋蔵文化財センターが休館し、郷土の歴史を学べる施設がないので早く博物館を作してほしい。	文化財に触れる機会を確保するためにも、少しでも早く新博物館を開館できるよう努めてまいります。
	新博物館開館まで期間があるので、子どもたちの学びを保証する対策を検討してほしい。	勾玉づくりや土器づくりなどの体験プログラム、出前授業や出張展示などをおとして、子どもたちに歴史への興味をもってもらえるよう検討してまいります。
	来年度は、地元有識者による展示コンセプトの練り上げ、市民との意見交換に時間をかけて基本計画を修正し、経営形態の問題も議論すべきである。	展示計画等を検討していくうえでは、様々な有識者の意見を参考にしております。
	敷地面積が大きいので、モノづくりに関しては、産業技術史系博物館の新規建設を検討してほしい。(他1件)	東大阪市では、モノづくりの歴史などを含む歴史民俗系博物館の整備を進めています。産業技術史系博物館など、別の新規建設のご要望については、庁内関係部署にご意見を共有いたします。
	自然やモノづくりの分野については、別の施設が必要ではないか。(他1件)	
	新博物館の整備基本計画策定が安易に業者に委託されていることが問題である。事業活動計画、展示計画、収蔵施設などは、将来の担い手となる学芸員が中心となって立案し、建築計画は専門の建築設計業者に委託し、管理運営計画は市の責任において検討すべき。	新博物館整備基本計画策定にあたっては、有識者からなる審議会で議論を重ね、庁内調整を図ってまいりました。引き続き、学芸員を含む市職員が主体性を持ち、計画を進めてまいります。
	「文化財施設」だけでなく、鴻池新田会所、市民美術センター、ドリーム21なども含めて、東大阪市としての中長期的な博物館整備の構想、ビジョンについても検討しておくべき。	他の公共施設との連携など、中長期的なビジョンについても検討してまいります。
	「フィールドミュージアム」に向けて市内の文化資産の復元を含む管理・改修をお願いする。 ・市内にある価値ある文化資産に対する市のこれまでの対応の総括が必要。(旧旭町庁舎!) ・鴻池新田会所のかつての機能を伝えるためにも水を湛える美しい周濠の復活や環境美化を行うべき	博物館を拠点に、市の宝である文化財・地域資源を「まちまるごと博物館」とし、市全体がフィールドミュージアムとして魅力を発信していけるよう、適正な保存・活用に努めてまいります。
	歴史的に貴重な建造物である旭町庁舎を博物館として活用できていれば、様々な問題の多くが解決でき、集客も望めたと思う。教訓に。	